編集後記

2020年でインプリ科設立25年目を迎えます。これを機に記念誌発行の話が持ち上がりました。25年という年月は非常に長く、当初から在籍している科員はいません。それどころか10年前のことを知っている科員も少数となってきました。科が歩むべき方向も過去の歴史から導き出されます。共通の目標を持つためにも科内文化を知ることは重要です。ここに記念誌作成の意味があると思います。また他の研究科の皆様にもインプリ科の活動を知っていただくことも大切です。作成に当たっては資料の羅列でなく、読み物として作成するよう心掛けました。インプリ科がどのようにして始まったか。どのように考えどのような活動を行ってきたか等々。この冊子を見ればあらかじめのことが分るようにしました。また客観的な記述にとどめ評価はできるだけ避けるようにしました。評価は後世の者が行うべきものと考えています。

25周年記念誌制作にあたり黎明期のシニア自然大学や研究科設立当時の様子を見てきました。また初期のことを知る松原安茂氏（H8～12インプリ科在籍）宅を訪れ、当時の話をお聞きするとともに、写真や資料の提供をいただきました。シニア自然大学が事務長長井美知夫氏を先頭に、社会貢献活動に邁進されていたことが分かりました。そもそも自然大学は社会貢献活動実施するにあたってのリーダー養成をその使命として出発したのですから、当然と言えば当然のことでした。

平成7年、第1回社会貢献事業発表会が行われ、以降毎年実施されました。いつまで続いたかは不明ですが、少なくとも平成17年まではその記録が残っています。記念誌ではこれらのデータを読み取り、初期のころの社会貢献活動を把握することが出来ました。

今回の編集で集まった資料は膨大なものになります。残念ながら多くの資料が、紙面の制約から割愛せざるを得ませんでした。記念誌は後世へ記録を残すのも重要な役割ですので、集めたデータのうち貴重な資料は現物保存するとともに、極力電子データとして保存して行きます。

25周年記念誌発行に当たって感染拡大で中断しながらも、ズーム会議や編集委員会を開き、各委員が分担し執筆しました。出来上がった原稿は、委員会にかけ原案が出来上りました。委員の皆様のご協力に、改めて感謝いたします。その後科員の皆さんに意見をいただき、完成することが出来ました。

2017年（H29）3月研究発表会終了後、これまでの社会貢献活動の取組に対してインプリ科が表彰されました。私たちは非常に誇りに思っています。これも記念誌発刊の動機となりました。

2021（令和3）年9月

インプリ科25周年記念誌編集委員長 石川正樹